

大坂時報

知事局五月十八日火曜発行

ロズバグ日本人收容所

米軍毒ガス使用説

アツい攻略に絡む戦報

華府月曜日聯合通信は、米軍大軍がアツい島日本警備隊を包圍して激戦中なるを報じ、天候險悪にして、米軍の徹底的攻勢を許さず、唯一の天候晴朗の時、米軍は米軍の軍事的には完結するに、当局は絶対観して居る。尚、華府に於ける海軍情報、数日前の沈黙を破つて、アツい島尚交戦継続中とのみ発表した。公報に非る他の情報、総合するに、一、東京放送、華府民間接受では、アツい南岸に激戦中とあり、二、陸軍情報部長、デュー・ベイ大佐は、アツい日本兵掃蕩後は、キスカに軍を投入するに、三、尚、アラスカ領より、日本侵入軍を駆逐せば、クイライル海峡(南緯領カムキヤウカと日本の千島、左守島間)の日本基地並に、パラムシ島を攻略するを發表し、

四、日本側の、唱ふる如く、米軍が毒ガスを使用せし事實ありと否定した。十億万噸造船費通過(華府國際電)本日下院を通過し、上院に廻附された。海軍建艦費は、拾七億万、中海外戦場使用する上陸作戦船、小艇が無数に計上され、總噸數拾億万噸とある。一ヶ年免稅新予算通過(ロムル安新稅法が上院を通過した。一九四三年滞納稅支拂皆滿期を戦後延期する事を條件とした。其後、同附された下院に於ける同案は、右の條件は、大統領がこれを拒否するに、あり、事を危懼して、小田原評定に入つた。華府聯合通信は、本日中午に採決し、明水曜日に白亜王館へ送附することに決つた。日報導したが、大統領の諒解を得るに、要するに、言ひ、議会の勝利を予報した。因に採決の結果は、下院通過疑い無しであるといふ。

平和使節の往來

羅馬法王に平和提唱進言したと傳ふる米國福音教僧正スヘルマンは、其後渡支の途上、ハレスタイに足を駐めたが、昨日法皇が平和提唱せし時は、イースタンブル(エウコンスタンチノール)に着いたクラリジヨ法王秘書も同伴した。然し、スヘルマン僧正、同伴者である法皇の対面、互に特使に非ずと否定した。

聯合國食糧會議開催

二百名のカード附警告(記者軍數手退さる) ホットスプリング(國際電十七日發)本日、聯合國側各代表は、何れも、秘密、速記係を帶同、ホムムス、トホルに乘込て来た。代表者の乗込汽車保護を爲す二百名の兵士が、其旅館を、その重に警戒。特に、武裝兵士が、新聞記者の接近を妨げんとする、印象をうけた。各新聞社を代表して、カーゼット紙の、ニスバルが、各國代表と個人的會見を申し込んだが、当局より、拒絶された。之は、大統領の個人的意見に依るものらしい。尚、今向う、大會議の議長は、米國側代表者、一人、マイウイン、が、文判事が、之に當ると傳へられる。

豆エニス

△米國は今月末迄に、六万五千人の看護婦を、養成し、左ければ、ふらぬと。△エニカレトニアの工人は、非常に文化人で、自衛で、ハロモカを、妻とする、と米國通信員が傳へてゐる。

△豪洲では、ゴムをセーフするため、自動車は、時速四十哩より、三十哩に制限。△全米在郷軍人團長、ローン、ワーレン、が、北阿戰線、視察、印、印、の論文を、発表し、て、あるが、一九四四年に、野心ある者と見られる。

第五大隊厚生機關行事日程  
 午前九時  
 午後一時  
 午後七時

日	土	金	木	水	火	月
普禪會 (五社) 淨土禮拜 (六食) 基督教禮拜 (宗)	時華解說 (天石氏) 一時半 (宗)	基督教 (宗) 祈禱會 (宗) 放送 (七食)	音樂 (櫻) 習字 (五社) 祈禱會 (宗) 放送 (七食)	正信偈 (宗) 祈禱會 (宗) 放送 (七食)	梵唄 (宗) 祈禱會 (宗) 放送 (七食)	佛典講義 (宗) 聖公會禮拜 (宗) 放送 (七食)
宗、宗、中隊食堂、五社、五中隊社、六食、六中隊食堂、團、圖書室、娛樂、室、七食、中隊食堂、等、判、讀、本	◎佛教講座 (ノート持者あり) 今、拾八日(火)午後七時半 才十二中隊食堂 講、傳、歌、(佛の子供) 正信偈、才、二、講、 什岡隆英師	基督教 (宗) 文化講演 (宗)	佛教研究會 (宗)	日本画 (五社) 講演 (宗)	英語 (初、團) 英語 (中、五社) 神道講義 (宗)	日本画 五社 基督教 (宗)



早産の記録

晩婚の婦人ならば、今頃漸く結婚を  
する二十九才の女が、現役兵士の母親  
である事か、本日デキサス州ハウストン  
で判明し、流石に早婚に敬馬かぬ米  
国でも、これはよく話題を作ったが  
此女の名は、ノラ、エル、デボンと呼び訪問  
の記者に、顔を紅糸に染めあから  
以下のローマンスを物語った、私はア  
マバマ州のエンタープライズで、九歳の時  
前の亭主と結婚しました。デミ(亭主  
の名)が、私にキャンデーやオレンジや又私  
の好きな着物を買ってくれらるうで、結婚  
する氣に成つたのです。長男は、私が十  
一歳の時生まれ、十五歳の時娘が生れま  
した。私が結婚した時、体重が六十斤  
でした。私共二人が、郡役所へ結婚届  
けに行くと、お役人が、デミに向つて「お前  
は、こんな子供供と結婚してどうするつ  
しりかぬ」と尋ね、私に「彼是聞きたま  
した、デミが豫め何事も言ふな」と  
口止めしてゐたので、私は黙つて居りました。  
教會で結婚式が終り外へ出ると  
私は一生懸命に自分の家へ走り歸り  
ました。それは何かしら間違つた事を

仕出かした様赤氣がしたかうでした。  
家に歸つた時、私のお母さんは表を掃  
りて居りました、私がデミと結婚した事  
を話すと、母はビックリ仰天し持つてゐた  
箕でデミと私をぶくりにつけ二人の結婚を  
認められませんでした。母は私に「子供  
のお前にどうしてその道がつかまらぬかと氣  
狂ひの様な腹を立てました。けれども其後  
十年程デミと暮らして、夫夫婦喧嘩  
をして拾一年前離婚し、其後現在の亭  
主と、エルパソで知り合ひとて結婚しま  
した。長男のデミ、シモンは昨年七月  
満十八歳で兵士となり、現在サンディエゴ  
兵營に居ります云々(ハウストンUP報)  
流るるが知らぬと柿の初ちどり

誤れる祖先 (十三)  
日本人嫌ひの没分曉漢を際した  
全このツウインフオールの市民は  
日本人に対する態度が彼等と  
異なり、ミニドカセンターが如何に  
同市のビレニスに大切であるか  
をよく知つてゐた。  
最近ミニドカセンターの当局は  
日本人の外出に対するパスの發  
給を甚しく制限するに至り、ウ  
インフオールの市へ出る者其数を  
一日平均僅かに十人に減少した。  
従つて同市の商人は彼等すつホ  
ットブツクにこたへて来た事が  
分り始める様になつた。

同市の商業會議所會頭クロ  
ード、デトワイラーは、最近ある  
會合で市民に対し、如く警告  
を出した。  
若しも日本人に対し、いかに  
とを去む、又は乱暴な態度  
を執るならば、センターの日本人  
は安全なるキャンブから外へ出  
る事を欲しなからぬ。その場合は  
一般農園の收穫とビレニス  
は夥しい打撃を蒙る事と  
なる。センターの日系市民はツ  
ウインフオールの市の大事なる  
得意とせりつゝある。彼等は  
一度買物をして、それを取替  
へたり戻しに来たりしない。

◎日本の親心―在米同胞へ  
萬國赤十字社の在米代表は、日本赤十字  
社より万國赤十字社に依頼したる件を  
昨日午後、当ロースパーク日本人收容所司  
令官に移詳あり、レッドベター司令官  
は直ちに両知事を招致し、右公文を提  
示したる由を、其内容右の如し。  
日本赤十字社は、米國に於てインテン  
ショナルに日本人の、在日本子々の生活  
は完全に保障せられて居る故に、何等  
悪文虎患の要無し、且、在日本人に周  
知方々萬國赤十字社に依頼する有候  
就りては、貴官に於て、貴所收日本  
人代表に可然左傳達方願と候  
以上

買物の撰擇は手早く然も良  
品物を買入つてくれるか、實に  
商店にとつては上得意である。  
タウンの態度が改善  
ツウインフオールのタイラス、ニユス  
紙の記者、ジエー、ミューレンは同  
市々民一般が日本人に対する能  
度が変わつた事についで、如く説  
いた。  
我々は、收穫期に於て、日本人  
再移住者の援助が無かつた  
ならば、ゴツク返したであらう。  
従つて、日本人に対する我が社  
會一般の態度は公然たる  
敵性から、友交的歡迎の態

熊本縣人懇親會  
五月二十二日(王)夕七時  
才九中隊食堂にて開催  
の縣人諸氏の出席をきこ  
日照郷吟社互送句抄  
題 砂嵐 日盛り  
砂嵐 沙漠を雲に敷き、  
鬼雲の映ゆる國境、  
日の陰を縮まりて、  
日盛りや、絶ゆると無き風の色、  
また、射すユカの火りや、  
日の盛り、  
日盛りや、大氣の燃ゆる砂の原、  
次回課題  
可片陰。日陰云。  
五月二十二日

度に改善されたが、今尚セ、  
の日本人は、ツウインフオール  
の通りへ出て来てはなからぬと  
張つてゐる者もある。然し乍ら  
当市内各種團體の、  
會員等は、親しくセンターを  
視察して、其実状を知り、  
日本人の多きが、相像以上  
に米國式であるを、大に認識  
することが出来た。  
然し、あがう多数の米國市民、  
特に一杯機嫌の者は、「日本人  
をセンターに置く事は、我々白人  
の負擔である」と主張する。  
夏暑し呼吸せはし、  
銅鬼